

## 「本山寺山森林づくりの会」活動報告(11/18)

武田壽夫(文、写真)、倉谷(写真)、山 國(写真)

日 時：2018(平成 30)年 11 月 18 日(日) 9:30～15:30

気 象：天候=晴れ (気温：12℃)

活動エリア：「44 林班い」ほか

活動内容：作業道・里道の修復と自然歩道の安全度向上、並びに体験参加者の活動地体験

参加者：(会員)斧田一陽、小櫃徹夫、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、中村賢三、山田眞也、

宮本廣、山 國

(体験)工藤たかし、松本雅美、山本康子

計 1 2 名

### ともありおちこちよりきたる またたのしからずや <有朋自遠近方来 不亦 楽 >

台風の後始末に苦勞する日々だが、この間、“Trail Runner”の方々の入会・体験参加が相次ぎ、山には新しい顔が増えている。因みに、日本トレイルランナーズ協会編の「安全・マナーガイド」の第一項は「自然に敬意を払って行動しましょう」。この森林づくりも自然へのささやかな恩返し、広く山に親しむ人々に実践の場を用意出来ているようで、今日もトレラン組からは工藤さん、松本さん、山本さんのお三方が体験参加。始業時のミーティングでもつくづく「新しい力」を実感。

(この日、自然歩道で会ったお三方、聞けば内海会員のお知り合いとのこと。話が弾み、除伐後の玉切りまで手伝って頂いた。内、お一人からは後日体験参加の問い合わせがあったとか)

冬の足音は近い。今日の目標は中尾根(要図の R2)から山頂への尾根道(作業道)を全通させること。この「44 林班い」のモニタリング調査区から上方へは被災木で塞がっている。

### <中尾根(R2)は上手と下手から挟み撃ち、その成果は？>

中尾根の作業は 7 人で、体験 3 人を含む 5 人は例によって活動地を一巡し昼食後は山頂で合流する。

中尾根は山頂部から標高の低い調査区の方に向かって作業する組(3 人)と、調査区の外から上に登っていく組(4 人)の二手に別れ活動開始。下から攻め登る 4 人が装備したチェーンソー 2 台の威力は絶大、山頂スタートの 3 人も鋸片手に大いに頑張る。根起しの倒木は避けながら、何とか遮られていた 150m を通行可能に整備。合流後、頂上尾根への山腹の落枝や倒木も片付け、トラバース・ルートの林床も略整備完了。

体験組も一緒に全員揃った下山時には、天狗杉付近で頭上や足下に残されていた倒木の幹部分を玉切り、路肩に移動(写真⑪～⑬)。これで格段に通り返りやすくなったのではないかと(写真⑭)。自然歩道では、このほか、枝掛りして危険だった中折れなど、4～5 本を処理し、これで登山者も安心と自負しきり。

### <山だより>

季節の便りは本山寺毘沙門堂の紅葉(写真⑯)。

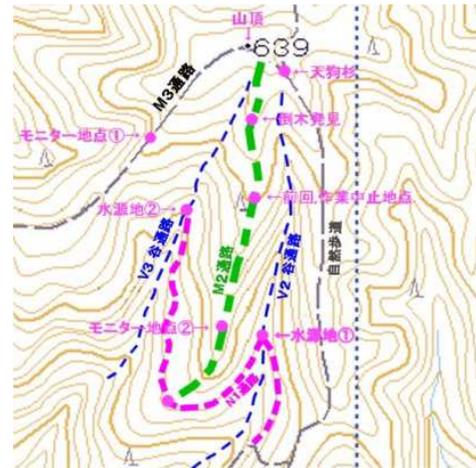
大木二本が倒れ掛った本山寺さんの鐘楼では、漸く屋根の倒木が処理された(写真⑰)。クレーンや高所作業車は三門を潜れないので、足場を組んで玉切りを繰り返す難作業だったとのこと。

(本文 以上)

① 今日もシッカリ働いた



② 活動地要図(緑色のM2 通路の北半部)



③ 縛りつけておいた掛り木を落とす(自然歩道)



④ 挟まっていた枝を切り漸く引き下ろす



⑤ 根起し(左)と倒木(右)に遮られた里道



⑥ 左 根起しの左側に道を造りなおす



⑦ 里道を遮る倒木



⑧ チェーンソーで玉切り中



⑨ 写真⑧の作業後



⑩ 山頂へのトラバース道を整備中



⑪ 天狗杉付近の自然歩道(未処理の幹が邪魔を)



⑫ チェーンソーの「出番」



⑬ 次々と玉切り



⑭ 運搬は力仕事、腰に堪える



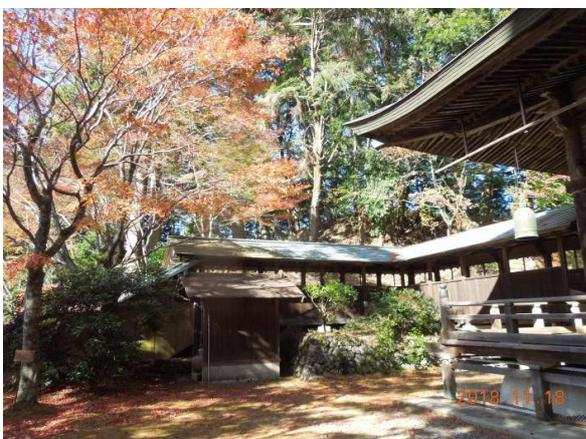
⑮ 足下も頭上も通り易くなった歩道



⑯ 歩道脇の中折れ木を処理(弁慶の大薙刀)



⑰ 毘沙門堂の紅葉



⑱ 修理が始まった鐘楼(倒木で屋根を損傷)

